

かお・人・interview

2025年10月29日

所長
インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
北九州国道事務所 所長

上田 晴気氏

UEDA Haruki

安全で円滑な道路交通の確保や災害時の迅速な対応、さらには地域への道路情報提供など、暮らしや産業の発展を支え続ける北九州国道事務所。地域からの期待に応えるためには、着実な事業推進や若手育成、地域課題への対応などが重要。

「選ばれる国交省、選ばれる業界を目指す」と上田晴気所長は力強く語る。

福岡県北東部における直轄国道の整備・維持管理について、現在取り組んでいる事業や将来的な展望などについて話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

道路は国の経済安全保障に重要なインフラであり、人と物資を確実に輸送するための信頼性、特に到着時間の正確性が求められます。人口が減少する時代において、経済の維持や成長のためには、移動や物流に関わる時間、経費をできる限り抑える仕組みが欠かせません。そのため、道路整備においては「時間通りに目的地に着ける」という要素の向上が、私たちの重要な使命です。

当事務所は経済安全保障にも直結する、国道の建設や維持管理という任務を担っています。地域としては、九州の玄関口である北九州エリア、かつて炭鉱で栄えた筑豊地域、自然や歴史、伝統文化が融合する京築地域の三つが中心です。昨年度は北九州市の転入人口が増加に転じるなど期待できる動きもありますが、いずれの地域も人や物流の円滑さなくして安定した地域経済の維持は難しい状況です。こうした現場では、地域の声や実情に丁寧に対応しながら、質の高い契約事務や工事監督の実施、職員の専門性や能力の強化とあわせ、業界との技術交流などによる人材育成にも力を入れていく所存です。



▲八木山バイパス (R7年3月笹栗IC～筑穂IC間4車線化開通)

Q 福岡県や北九州地区との関わり

北九州国道事務所での勤務は初めてですが、前職での九州全体の道路の改築予算を総括する道路部道路計画第一課長としての勤務経験を通して北九州・筑豊・京築地域の状況や現況道路網が抱える課題にも触れつつ管内の改築事



人口減少が進む中、生産性向上のためには
交通渋滞による無駄な時間を減らし、
効率的な物流を支える道路整備が重要です。

業を把握しています。例えば、みやこ行橋バイパスでは、令和2年度の計画段階評価でルートを決定するための検討を担当したり、下関北九州道路では、令和6年度から山口県と北九州市が都市計画手続きを進めるにあたってのルート素案の設計を担当しました。

こうした経験を活かし、九州全体や全国における当該地域の特色や状況を踏まえて、事務所の運営を行って参ります。

Q当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

当事務所は、一般国道2号、3号、10号、201号の計168.6kmを八幡、行橋、筑豊の3つの出張所で管理しており、管轄区域は福岡県の約半分の30市町村に及び、組織は8つの課と3つの出張所から成り、計75名の職員で構成されています。令和7年度は改築事業約62億円、交通安全事業約4億円、電線共同構事業約7億円の合計約73億円で各種事業を展開します。



▲北国スクール
研修テーマ設定ワークショップ

▲測量実習

特徴的な取り組みとして、YouTubeで「今日も現場イイじゃん!」という番組を配信中です。レポーターは用地課所属の女性職員が担当。現場の様子を等身大の視点で伝え、素朴な疑問を投げかける姿勢が、一般視聴者と同じ目線として好評を得ています。また、若手職員の自発的な学びを促す「北国スクール」を実施しています。これは、受講者自身が研修テーマを設定し、企画段

階から積極的に関わることで学習効果の向上を図るものです。これまでも北国ICT測量協会と連携し、測量実習を実施するなど、地元建設業界も巻き込んだスキルアップに取り組んでいます。また、地域の建設業との連携を重視しており、令和7年の道路法改正により道路啓開計画が法定化されましたが、大規模災害時の道路啓開の担い手は地域の建設業の皆さんだ、との認識のもと、災害時協力協定の強化を進めるとともに、必要な機材や人材確保のため、チャレンジ型の工事契約についても積極的に進めています。

Q今年度の事業概要

○一般国道3号黒崎バイパス

平成3年度に事業化し、これまでに順次供用しており、令和5年度末には春の町ランプ～前田ランプ、陣の原ランプが供用したことにより、並行する一般国道3号の交通渋滞は劇的に改善しています。現在は国道200号方面からの接続となる黒崎西ランプを施工しており、本年度は最後の主桁の架設を行います。

○一般国道201号八木山バイパス

令和7年3月30日に篠栗～筑穂間5.7kmを4車線で完成し、全線をNEXCOに移管して、全国初の「再有料化」となりました。料金は280円(普通車)と、かつての有料時代の約半額で設定されており、「使いやすい」と好評を得ています。また、4車線化区間では剛性の高い中央分離帯を設置した事で、正面衝突の様な重篤な事故は発生しておらず、軽微な通行規制にとどまっていることから、「時間が読めるようになった」と好評を得ています。残る筑穂～穂波東間7.6kmについても令和11年度開通に向け事業を推進します。

○一般国道201号みやこ行橋バイパス

当区間は慢性的な交通渋滞や交通事故が多発して

おり、苅田港をはじめとする物流拠点を行き交う車両と、沿道が目的地の車両が混在するなど、安全性・信頼性の向上、定時性の確保が課題であり、令和7年度に新規事業化しました。これにより一般国道201号全線に渡って4車線以上の計画を有することとなりました。本年度は今後の実施設計に必要な現地測量作業や地盤状況の把握のための地質調査を推進します。



▲みやこ行橋バイパス

○一般国道201号香春拡幅

安全性・信頼性の向上、定時性の確保を図るとともに筑豊地域の横軸の交通ネットワークを形成し、地域の活性化に寄与する4車線化事業です。本年度は引き続き改良工事や橋梁架設工事等を推進します。

○一般国道201号仲哀拡幅

旧道にある一旦閉鎖したトンネルの内空断面を拡幅し改修することにより4車線を確保する事業です。本年度からトンネルの拡幅工事に着手します。

Q 地域との連携・協働について



▲北九州道路サポーターの会

当事務所では、道路利用者の休憩・情報提供・地域連携の場として活用されている「道の駅」の登録に向けた支援を積極的に行っています。また防災道の駅としての機能整備や子育て支援、インバウンド観光への対応強化など、多様なニーズに対応できる地域拠点として整備を進めています。

また、「道」を舞台に、あるいは「道」をテーマに、道路の清掃・美化、花植や樹木の育成などの取り組みを実践されている「道守」の皆様との協働についても、連携を進めています。加えて、道路を活かした景観や自然、歴史、文化などの特色を活用した「美しい風景づくり」や活力ある地域づくり、観光の振興を行う「日本風景街道」の推進にも力を入れています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

地域経済の担い手でもあり、低頻度大規模災害時の復旧活動でも道路啓開などに主体的に取り組んで頂く地域建設業界の皆様は、私どもにとって重要なパートナーです。また、道路施設を適切に維持管理するための道路構造物の点検・診断と補修・補強などのメンテナンス事業においても地域建設業界の皆様との連携が欠かせません。建設業界全体が持続可能で、次世代の担い手にとっても魅力的な業界となるよう、取り組んで参る所存ですので、業態改善のご提案など頂けると幸いです。

Q 趣味や健康法について

趣味は、マリンスポーツとウィンタースポーツです。2級船舶免許を取得し、若い頃はウェイクボードやボードセーリングを親しんでいました。現在はスノーボードを中心に楽しんでいます。また、新たな挑戦として、日本風景街道の「歩く唐津街道の旅」に参加する予定です。これは、佐賀県唐津市から北九州市門司区までの約140kmを月に1回、計10回に分けて歩く企画です。踏破を目指し健康につなげたいと思っています。

座右の銘は、金剛禅総本山少林寺拳法の教えの一部で「自他共楽(半ばは自分の幸せを、半ばは他人の幸せを)」、「力愛不二(愛なき力は暴力であり、力なき愛は無力である)」のふたつです。学生時代にこれらの教えを学び、深く感銘を受けて大事にしている考え方です。

プロフィール



熊本県出身、53歳
H 6年4月 建設省九州地方建設局に入省
福岡国道工事事務所
H14年4月 内閣府沖縄総合事務局出向
H25年4月 道路局国道・防災課道路防災対策室
防災対策係長
R 元年7月 道路部地域道路課長補佐
R 3年4月 国土技術政策総合研究所
橋梁研究室主任研究官出向
R5年7月 道路部道路計画第一課長
R7年4月 現職